

令和6年度第1回長崎市農業振興計画審議会 会議録

1 日 時 令和6年11月14日（木）14:00～16:00

2 場 所 長崎市役所5階 議会会議室3・4

3 議 題 長崎市農業振興計画の推進について

4 審議結果

審議会の成立の確認（出席委員12人／15人）

(1) 会長及び副会長の選出・・・・・・・・・・資料1

(2) 長崎市農業振興計画の推進について

○第二次長崎市農業振興計画〔前期計画〕における

令和5年度の実績及び令和6年度の実績・・・・・・・・・・資料2

○重点的取組みの推進・・・・・・・・・・資料3

・支援体制の充実と育成について

・人・農地プランの実質化に係る取組について

・効果的な情報発信による消費拡大について

○取組指標及び施策体系・・・・・・・・・・資料4

・取組指標一覧

【A委員】

事務局側より「令和5年度の実績及び令和6年度の実績」における説明を聞いたが、委員の皆様の意見を伺いたい。

農業への思い、ご自身がなされていることも含め意見をいただきたい。

【B委員】

市内担い手の数は施設園芸中心に増加傾向。圧倒的に高齢農家多く相対的に農家人口減っている。農地も非耕作地が増えている。課題大きいが私の組織としても今の既存農家、新たな農家を迎えるべく取り組みたい。所属組織でも第7次中期経営計画及び農業戦略策定時期。

担い手確保に向け農業戦略策定予定。こういった会議の場の意見を参考に構築したい。

わかりやすく言うと、今なぜ就農者がいないのか、親元就農もできないのかというと、やはり手取り少ない、安心して継げない環境がある。いちごについてはその状況がある程度見えやすい中で担い手としてなりやすい環境にある。半面、びわは永年作物でありつつ、天候に左右されやすく、年に1回しか収穫できず、収益不安定性がある。市も模索しながらいろいろ計画立てているが、なかなか新たな人を見込めない環境。今年から市内ではないが、果樹の担い手育成のトレーニングファームを諫早市伊木力に設置し一人研修生迎え育成中。今後はびわでも展開していきながら新たな人の確保や離農農地の継続性もった中での動きを作っていきたい。

拡大はなかなか難しいが長崎市農業の持続を目標に進めていきたい。私どもの思いだけでは達成できないので、行政の力添えや地域の方のご理解と行動も一緒にした中で進めていけたらと思う。今後も農家、地域に寄り添いながら取り組みたい。

【C 委員】

スマート農業も目標に入っているが、スマート農業というとハウス自動制御など大規模なものか簡単な温度図るセンサーをハウスに置きスマホでいつでも見れるなど、手軽であるもののすごい高いか、自分で見るの両極端という感じがある。最近では生成 AI など、今まで農家が目でデータを確認していたところを、指示すると自動でできるようになっている。これまではプログラムを書かないとできなかったことが、日本語で指示するともうできるようになっている。すごく高い物はそれなりに役に立つことわかっているが、安いものが AI のサポートでより役に立つものが結構出てきている。安いけど思ったより役に立つようなもの、長崎市でも取り組めたらスマート農業の目標の実現できていくのではと期待している。

【D 委員】

花はコロナ明けが最高で去年も需要あったが、R 6 物価高や資材高騰の影響で全国的な花の流れとして生産量が 1 割減っている。円安の影響もあるが花の輸入量も減っており、伴って販売額も落ち込んでいる。食材は多少高くても日頃手に入るのが、花は価格上がると手を出さないため最終消費者へ渡る販売量落ち込んでいる。地域格差あり都会では花束を 1 万～2 万 5 千円でも買う人もおり、価格差、貧富の差が顕著になってきている。花業界見通せないが長崎市でも経営体がかかり減ってくるのではないかな。来年 1～2 月の農業センサスで秋頃に経営体数がはっきりするが、農業人口どのくらい減るか不安。改めて農業計画と経営体母数減少に伴う農林行政の在り方、突っ込んでいかなければならない時が来るのでは。とはいえ行政の予算も湯水のごとくないため、今後国の行政の流れは農林業予算も絞られてくるのでは。個体数が減ると行政の補助率も減るため、花業界、農業全体含め注視していきたい。

【E 委員】

琴海など郊外は 1 筆が広いので独立して取り組もうとできるのだと思う。旧市内は 1 筆 1 筆狭く、すり鉢型の底辺の土地でひしめき合い生活している中で、平地でする畑と段々畑で昔から取り組んでいる畑でやっている。1 戸 1 戸の農家はほぼ高齢化して、畑荒らす気はないが自分ではどうしようもない、借り手もないという苦しい状況。長崎では担い手をもちろん育てていかないとだが、若い人は子育て等お金も時間的な余裕もない。個人的には休日農業を推進しており、仕事休みに狭い面積でも良いのでやってみないか、借り手貸し手をつなぐ取組している。

休日農業であれば子供への食育にもなるので、なかなか広まっていけないが広めていければと思う。

資料 P13 の農業チャレンジ塾の講話で参加したが、仕事リタイアした方が多い。上の世代に頑張ってもらい、息子、娘、家族たちに応援してあげるという長崎ならではの

農業の形を広めていけたらというのが率直な意見。

また、市が推進する小規模基盤整備は、意向調査で売ったり貸したりして良いという意見多く、自分で耕作しているところは1割程度。鶏卵論になるが、土地使用可能との回答あったところは市は基盤整備していただけるのか、それとも区画整理して市民農園など広く推進していけるよう使っていくのか。

【事務局】

小規模基盤整備は市よりも農業者が主体になって進めていただき、市が支援する補助制度として設けている。琴海の別地区で5ha以上難しいとのことで農協や県、地元と検討し候補にあがっている地区は、国の事業の話し合い進めているが、そちらも農協や農業者が主体となって取り組んでいる。

市民農園やファミリー農園は農家が貸せる方法もあり、都市部が近く需要あるとは思いますが、現実既存の市民農園も少し空いているので、開設して需要あるかは難しい。

基本、市が事業主体として取り組むのは難しい。

【E 委員】

新規就農者を先に見つけないと難しいということか。

【事務局】

研修生や候補者がいないとお金をかけて整備するのは正直難しい。投資にリスクが生じる。

【E 委員】

どちらにしても難しい。

【事務局】

そこは皆さんと話しながら進めたい。

【E 委員】

みなさんの意見お聞きして参考にしていきたい。

【F 委員】

所属の協議会は全国組織だが、農業には関わってはいない。地域活動の関係団体。みなさんが作る野菜を使って料理講習をして地域の方々に伝達をしている。この場で農業の話きいてもわからない。

食材を使って講習や栄養をどれくらい取ったほうが良いという活動をしている。

【G 委員】

農家の立場からいうと、農地の集約や人・農地プランがやらないといけないことと思う。直売所の立場からいうと、優良な野菜を作れる土地の条件がいい所は狭くても

組合の中で若い方に継承ができないか、土地を荒らさずに続けていくことができないか考えている。

底上げしていかないと直売所は生産者減ると難しい。

直売所の販売額でいうと今年のように夏の暑さ続くと、直売所に全然出てこないの
で、果物を主体に考えている。

琴海西彼は巨峰が減りマスカット増えており、小さい農家多いため多品目のブドウ
がある。直売所でしかできない売り方なので単価をしっかりとりたい。

いちごはなかなか直売所に来ないがすごくほしい。直売所で PR したら販売額も上
がるかと思うので検討してほしい。

野菜生産者は減っていて、定年帰農者が上手に作られ、消費者も苗を買っていく。
もしかすると消費者も生産者になっていけるのでは。そういった方や学校で作ってい
る方にも呼びかけマルシェや野菜の情報交換などできると消費拡大に繋がるのでは
と思い、やってみたいと考えている。

【H 委員】

所属している組織は琴海除く市内と長与、時津の青年農業者でやっているが人数は
5 名。新規で入ってきても組織に属さない人も少なからずいる。

他方、生産部会は自分が始めたときは新規就農が 11 人、今年 23 人で倍入ってい
る。基盤整備された大きい土地があり農協のハウスリース事業、その他市で様々な補
助をしていただき回っている状態。また環境制御のスマート農業機器で全員のデー
タが見れる。出荷時に新規就農者にアドバイスしながらコミュニケーションとってい
けるのも成功の秘訣。

新規就農者から研修生を受け入れる立場になったが、東長崎で就農を考えている
方が、土地は見つかったが地主が亡くなり親族の許可取りなど苦戦しているので、許可
が必要な部分にかかる再調査進めていっていただけたら。また、東長崎は狭い土地な
ので、その場所で就農を進めるのも心苦しい。先に基盤整備して場所用意してもらっ
ていたほうが新規の方呼びやすく、指導者側も安心して送り出せるので、そこも願
いしたい。

【事務局】

比較的大きな基盤整備については国庫事業で可能。例えば 5ha 以上で担い手はい
るが、全部が決まっているわけではない所など。小規模については事業主体がない
といけないので、研修中でも基盤整備するのは可能で、所有者がしてもらえたら一番
良いが、借りる人を想定して 2～3 反の整備は調整して取り組む形になる。

【I 委員】

支援農家からは物価上昇でコスト上がっているが、なかなか販売単価に反映でき
ていない難しさある。国内消費弱いので輸出や都会向けに出す相談増えている。ベス
トな答えはそれぞれの品目、状況によるが厳しい状況続いている。

振興計画の指標実績の事例で、スマート農業はどういったところを導入しているの

か。また、新規就農者は増えているが、こういった品目が人気か。

【事務局】

低コスト耐候性ハウスで環境測定ができる高規格ハウスやセンサーによる自動化もスマート農業に含んでいる。

いちごや花、アスパラガスなどで温度センサーで自動でビニールが上がるといったもの含む。農協のドローン防除も水稻でされているが、資料の実績に含んでいるのは施設園芸農家がメインで農協リースハウス導入を含み、ハウスの方がほぼ 100%占める。

新規就農者も連動して施設園芸農家が多く、いちご、アスパラガス、ミニトマト、果樹だとびわもないことはない。びわで年 2 人程。いちごは年にもよるが、3、4 人。施設園芸はいちごが一番多い。

【I 委員】

傾向として施設栽培で初期費用は大きいが、安定した経営ができていくことへの参入が多く、そこに対して積極的に取り組み進められている傾向という認識でよいか。

【事務局】

そのとおり、就農時の安定的な経営を早くしていただくためには、投資は大きくなるが面積が小さくても稼げる品目ということで施設園芸になる。

【B 委員】

施設の建設費用反当り 2 千万円以上と初期投資が過大。農協ではリースとして提供し年間の負担軽減した中で就農しやすい環境作りも市にも理解いただき、いちごも初期投資大きいので、軽減図らないと誘導できないところがある中で、上手くいってるのが主にいちご。当然農家の実績もある。

【H 委員】

自身の就農時の 2 倍になっている。ハウス建てるのも、自分の就農時より倍。フィルム貼り機まで入れるようになったのでちょっとかかり過ぎだと思う。

【I 委員】

倍といっているのはどの部分か。

【H 委員】

資材単価だけが単純に倍。ハウス建てるだけでも倍で、今のいちごは土で作っているわけではなく、高設ベンチという形で作り、それだと 2 割くらい収量上がるといわれており、炭酸ガスなども入れることでさらに 2 割くらいの増加が図れるという話で、いちごに関しては今は入れないと取れないという言われ方をする。

【I 委員】

そこまでやればある程度軌道に乗るというのが見えているから、そこに対する就農者は増えているということ。

【H 委員】

部会でも高収量者、1番とっているのは1年目、2年目の新規就農者で、考え方が今までやってきた考え方とは全然違う部分があると思う。

【J 委員】

グリーンツーリズムでは体験など田舎の風景楽しんでもらったり、田舎でできたものを使った加工品、食べ物を作ったりというものが一番多い。まず農村の風景がないとなかなかツーリズムやりにくい。外海の場合は道の駅という直売所があるが、現実農家も減っており、結局地元ではないものが多くなる。地元もまず子供が本当に住んでいない、ほとんどその代で終わりという農家が多く、代わりに作るものはとても良い。とても上手においしいものを作る。もともとの根っこの部分の農村風景がなくなりつつあるのが残念。

市内ツーリズムの各グループもどちらかというと直接農業体験してもらうより、地元でできたものを使った加工体験が多い。

農家民泊の場合は、定年がない。定年がないので、いくつまででも自分ができればできるので、農や魚の活動に入れてもらえれば。大銭は入らないが楽しみでの小銭は入る。そういう意味で市内にももう少しツーリズム広げていきたい。自分たちだけではできないので、地元の様々な方と一緒にしないとできない。そういう意味では少しずつ広まっていけばと思う。

【K 委員】

今は介護施設で、以前はホテルで調理していた。地産地消進めてほしいと言われ、そういったフェアメニュー作ったこともあるが、昨年頃より食材の高騰が全体的にすごいため、大変なホテル多く、どうしても野菜など食材は冷凍を使っているところが多い。協力はしたいが原価が決められており、見合っていないコストがかかるため、町の飲食店なども協力できないというのがある。そういうところを協議してよくなると良い。また、食関係のイベント、以前は食の博覧会など市と調理師で協力してやっていたが、長崎もホテルが段々建ち、調理師不足になっている。協力する調理師がおらず、若い方が育たず困っている、料理コンクールも毎年させてもらっていたが、人がおらず協力できない状況になっていっているのが課題。

【L 委員】

東京のデパートでは長崎のびわ並んでいない。長崎のみなさんは一番だと思っているが、東京にあるのは千葉産のびわ。立地条件も良く有名な大玉品種がある。そこで違いがでてくる。結構農家と話もするが、難しい点多く、販売量伸びないなど課題。これというのはないが、長崎の方が食べて、長崎のびわを県外に出すような盛り上がり

りがないと、びわという特産物の先はないと思う。県知事、市長のトップセールス足りない。宮崎県では知事が宮崎のマンゴーを有名にした。行くたびにマンゴーを持ってくなど、それくらいの熱量が必要。長崎は熱量が足りない。千葉がどうしてるかというと、千葉のネームブランドは献上びわ。天皇陛下へ献上している。長崎でも県が依頼するなどして宮内庁へ献上はできる。そういったことが評判にならないとなかなか難しい。

農業の難しさ、島原に行くと広い土地でトラクターに乗っており長崎との違いを感じる。東長崎にも小規模農家たくさんおり、高齢者がやっている。私も地主に借りているが、放っておくより雑草でも取ってもらえたらいいからとのこと。先日ワイヤーメッシュの隙間について、サツマイモがすべて食べられた。農家の方もやる気がしない。県教育委員会の教員、学校の教員に農業をカリキュラムに入れろといっても聞かない。机上の上でなく現場で体験する教育が足りない。耕作放棄地などうまく利用して現場での教育に反映させないと、耕作放棄地ばかりになる。鳥獣被害も大変になっており、学校近くにもイノシシ出て農業だけの問題でない。地域の環境と安全をどうやって守っていくか、鳥獣対策も幅広く取り組んでいただかないとケガ人がでたらどうしようもない。農業だけでなく地域の安全にも視野を広げて取り組んでほしい。

【委員】

ワイヤーメッシュの配布、認定農業者の方は畑広げたいが作ってもイノシシにやられるのは目に見えている。市がくれるのは柵だけで鉄筋などなく、農業者も自分で準備するとなるとしばらく取り組めずがっかりしていた。なぜ柵だけなのか。

【事務局】

住宅地の生活環境被害については、市民の方からの相談が 1,000 件程度あるうちの 7 割くらい。広域的に張る市での取り組みは長崎市道を活用して取り組んでいるが、今のところは自治会に申請いただき設置いただいている。自治会については設置の支援もしており、柵、鉄筋などフルセットで対応している。捕獲についても地域の相談員の方や協議会の方、捕獲隊を設置していただければ、報奨金という形で捕獲いただいたら農家市民関わらず支出している状況。

農業者のワイヤーメッシュについては、令和 5 年度から見直しをし、中心経営体であればフルセット貸与を市の単独事業でも対応している。そもそもなぜ柵だけかというと、生活環境被害については、地域を守る設置のためフルセット、農業者や家庭菜園はあくまで個人の土地を囲うため柵のみとしている。様々な声があり、農業者が一番は国庫事業を活用していただくのが、防錆加工もしてあり、フルセットで、市の負担もなく良いため、国庫事業を誘導させてもらうが、今のところは見直しをし、中心経営体であればフルセット対応している。ただし上限 250m。見直しはしているものの、まずは国庫事業を優先し勧めてほしい。

【委員】

それは申請書のみでできるのか。

【事務局】

中心経営体はこちらで調べるので申請のみでよい。

【A 委員】

その他、農業振興計画について意見はあるか。

【H 委員】

一つ現状。外海で空き家バンクをしているが、たまたま空き家バンクで来た方が集落で新規就農する。先ほどから新規就農多いという話で、どんな方来ているかわからないが、移住と農でうまくいった事例あるので伝えていただければ。

【事務局】

移住について、市が把握して国の制度使った方については、長崎市内の他部門の方が就農するのが 9 割。市外からの移住者は 1、2 年に 1 人。年間新規就農者が 17、8 戸いるが、年に 1 件あるかないかが移住者。連携した取り組みは言われる通り必要と考えている。

～ 以 上 ～